

用語集

多発性骨髄腫に関する用語をご存知ですか？

監修：田村 秀人 先生

獨協医科大学埼玉医療センター 糖尿病内分泌・血液内科 教授
日本医科大学 血液内科 客員教授

本冊子では、多発性骨髄腫について正しく理解していただくために、この病気に関する用語を、わかりやすく解説します。





はじめに

「**多発性骨髄腫**」という病気の名前を初めて聞かれた方も多いと思います。多発性骨髄腫は高齢者に多く、毎年10万人あたり6人前後がかかるといわれています*1。多発性骨髄腫は血液がんのなかでは白血病、リンパ腫に次いで多く、日本には約29,000人の患者さんがいるといわれており*2、さらに年々増加傾向がみられます。以前は、この病気に対してあまりよい治療法がなく、治療が難しい病気でした。しかし最近では、新しいお薬が使用できるようになり、また血液をつくる細胞を移植する方法（**自家造血幹細胞移植**）が普及してきたことにより、治療成績が向上しています。

青字で示した用語は、多発性骨髄腫を理解する上で特に重要な用語です。まず、この用語集で、その意味を確かめてみてください。

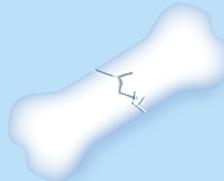
多発性骨髄腫は、**骨髄腫細胞**が増殖し、異物を攻撃する能力がなく役に立たない抗体 (**M 蛋白**といいます) をつくり続け、これらの骨髄腫細胞や M 蛋白が、様々な症状を引き起こす病気です^{※3}。さらに**骨病変**、**腎障害**、**貧血**、**高カルシウム血症**など様々な合併症が現れます^{※3}。これらの病気を克服するためには、その原因や、検査・診断、治療の内容についてよく理解することが大切です。しかし、多発性骨髄腫に関する用語の多くは、日常でほとんど耳にしないものです。そこで本冊子では、多発性骨髄腫に関する用語をわかりやすく説明します。病気について正しく理解し、上手く向き合いながら、よりよい日常生活を続けていきましょう。

多発性骨髄腫の症状の発現

骨髄腫細胞が
増え続ける

M蛋白(役に立たない
抗体)が増え続ける

血液や骨、臓器に障害を与え、
様々な症状が現れる



(イメージ図)

※1 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス「がん統計」(全国がん登録) (https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/cancer/26_mm.html) [更新日: 2022年10月05日]、※2 厚生労働省: 令和2年患者調査(傷病分類編)、※3 医療情報科学研究所 編: 病気がみえる vol.5 血液 第2版, メディックメディア, 2017



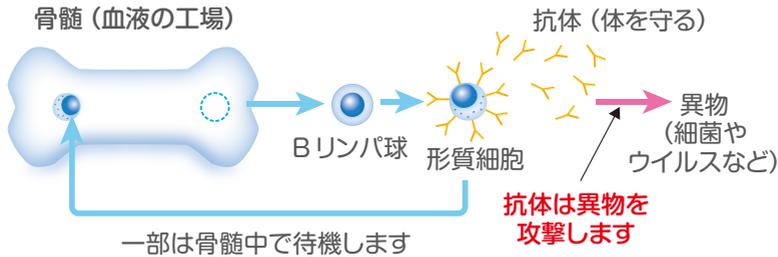
多発性骨髄腫の原因

赤血球、白血球、血小板などの血液細胞は**骨髄**のなかで**造血幹細胞**からつくられ、それぞれ体を守るための大切な役割をもっています。たとえば、白血球の一種である**Bリンパ球**は、体内に細菌やウイルスなどの異物が入ってくると、**形質細胞**に変化して異物を攻撃する抗体をつくり、私たちの体を守っています*1。

ところが多発性骨髄腫では、この形質細胞に異常が起こり、がん化して**骨髄腫細胞**となります。骨髄腫細胞は骨髄のなかで増え続け、異物を攻撃する能力がなく役に立たない抗体 (**M蛋白**といいます)をつくり続けます*1。これらの骨髄腫細胞やM蛋白が、様々な悪い症状を引き起こします。

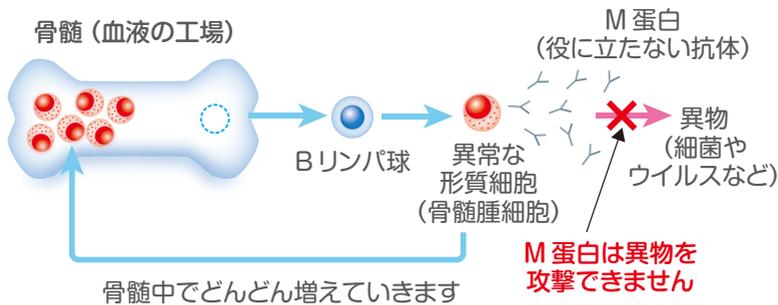
正常な形質細胞の働き

Bリンパ球が形質細胞に変化して抗体をつくり、体を守ります。



多発性骨髄腫の場合

Bリンパ球が骨髄腫細胞に変化してM蛋白をつくり、悪い症状を引き起こします。



(イメージ図)



あ 行

アポトーシス^{※1}

あぼとーしす

細胞が、細胞自身があらかじめもっている遺伝子の働きによって死滅することをいいます。一部の多発性骨髄腫のお薬は、骨髄腫細胞のアポトーシスを引き起こして、骨髄腫細胞を減少させます。

アミロイド^{※2}

あみろいど

細胞や組織に沈着しやすい性質をもつ線維状の異常な蛋白質です。多発性骨髄腫では、骨髄腫細胞からつくられる役に立たない抗体(M蛋白)がもとになりアミロイドがつけられます。

アミロイドーシス^{※2}

あみろいどーしす

異常な蛋白質であるアミロイドが、いろいろな臓器に沈着し障害を引き起こす病気です。尿が減る、むくみ、不整脈、手足のしびれ、下痢などの症状がみられます。

アルカリフォス

ファターゼ

(ALP)^{※3}

あるかりふおすふあたーぜ

肝臓、骨、腸、腎臓、乳腺、胎盤などに多く存在する酵素です。これらの臓器が障害を受けると血中に流れ出てきて、高い値となります。多発性骨髄腫では、血清アルカリフォスファターゼ値が正常より上昇することがあります。

アルキル化剤^{※4}

あるきるかざい

多発性骨髄腫でよく使用される抗がん剤の一種で、がん細胞の増殖を抑制する働きがあります。

アルゴリズム

(治療アルゴリズム)^{※5}

あるごりすむ

病気の治療法を選択する際の、全体的な進め方の基準を示したものです。

あ 行

アルブミン^{※3}

あるぶみん

血清中に含まれる蛋白のなかで最も量の多い蛋白質です。多発性骨髄腫では、血清アルブミン値が正常より低下します。

維持療法^{※5}

いじりょうほう

治療により効果が得られた後も、その効果を長く維持したり、再発を予防するために続ける治療法をいいます。

遺伝子変異

いでんしへんい

(遺伝子異常)^{※4}

(いでんしいじょう)

なんらかの理由で、正常な細胞の遺伝子に変異(異常)が起こることをいい、様々な病気の原因になります。親から子どもへと受け継がれる先天的な変異と、生まれた後に起こる後天的な変異とがあります。多発性骨髄腫は、後天的な変異が長年にわたり蓄積した結果、発症するのではないかと考えられています。

打ち抜き像

うちぬきぞう

→パンチドアウト (27 ページ参照)

エビデンス^{※4}

えびでんす

そのまま訳すと証拠や根拠という意味です。病気に対して、ある治療法やお薬がよい効果を示すことを裏付ける論文やデータがある場合、「効果のエビデンスがある」という使われ方をします。



か 行

化学療法^{※4}

かがくりょうほう

がん細胞を直接、殺したり弱めたりする化学物質を、お薬として用いる治療のことをいいます。

※1 医療情報科学研究所 編：病気がみえる vol.5 血液 第2版，メディックメディア，2017、※2 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス 各種がん 132 多発性骨髄腫，2017、※3 中尾隆明ほか：看護の現場ですぐに役立つ検査値のキホン，秀和システム，2017、※4 元雄良治：初めの一歩は絵で学ぶ 腫瘍学 知っておきたいがんの知識とケア，じほう，2015、※5 安倍正博 監修：もっと知ってほしい多発性骨髄腫のこと，キャンサーネットジャパン，2021

顎骨壊死^{※1}
がっこつえし

発生率は低いです。ビスホスホネート製剤などの骨病変や高カルシウム血症を治療するお薬を使用している患者さんにみられる、顎の骨の一部が腐ったようになる副作用です。そのお薬を使用する際に、口のなかを清潔にすることや、抜歯を避けることなどにより、多くの場合は予防することができます。

合併症^{※1}
がっぺいしょう

厳密には、1つの病気が原因で発症する別の病気のことをいいます。しかし一般的には、2つの病気が互いに関連がない場合も、合併症と呼ばれることがあります。多発性骨髄腫では、骨病変、高カルシウム血症、腎障害、貧血、感染症、過粘稠度症候群、アミロイドーシスなどが合併症としてよくみられます。

過粘稠度症候群^{※1}
かねんちょうど
しょうこうぐん

血液中に不要な成分がたまって血液がドロドロの状態になり、出血症状（鼻、眼、口のなかなど）、意識障害、腎障害などがみられる病気です。多発性骨髄腫では、過剰につくられたM蛋白が血液中にたまることにより発症します。

顆粒球^{※2}
かりゅうきゅう

白血球のうち、細胞内に特殊な顆粒状（つぶつぶ）の成分をもつ細胞を示します。顆粒球は、さらに細かく好中球、好酸球、好塩基球に分けられます。

寛解^{※3}
かんかい

治療により、がんの症状が軽減や消失したり、がん細胞が減少や消失する効果が得られた場合をいいます。効果の程度によって、完全奏効（寛解）、部分奏効（寛解）などに分けられます。

※1 安倍正博 監修：もっと知ってほしい多発性骨髄腫のこと、がんセンタージャパン、2021、※2 医療情報科学研究所 編：病気がみえ (https://ganjoho.jp/public/qa_links/dictionary/dic01/index.html) [2023年5月閲覧]、※3 厚生労働省：重篤副作用疾患別対応患者必携 がんになったら手にとるガイド普及新版、学研メディカル秀潤社、2017、※4 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん

か行

**幹細胞採取**

かんさいぼうさいしゅ

→造血幹細胞採取（22 ページ参照）

間質性肺炎※⁴

かんしつせいはいえん

肺の間質と呼ばれる部分を中心に炎症を起こす疾患の総称です。抗がん剤の副作用として現れることがあります。

感染症※⁵

かんせんしょう

細菌、ウイルス、真菌などの微生物が体に感染して増殖を続けることが原因で、発熱などの様々な症状が引き起こされた状態です。多発性骨髄腫では、微生物を攻撃する抗体の減少、骨髄腫の治療に使用するお薬の影響により免疫が低下するため、感染症にかかりやすくなります。

完全奏効

かんぜんそうこう

(完全寛解)※¹

(かんぜんかんかい)

治療により、がんの症状やがん細胞が完全、あるいはほぼ完全に消失する効果が得られた場合をいいます。いくつかの学会などにより多発性骨髄腫における完全奏効（寛解）の詳しい定義が決められています。

緩和療法※⁶

かんわりょうほう

がん患者さんや重い病気の患者さんは、体の痛みや心のつらさを抱えることが少なからずあります。そのような痛みやつらさを和らげることを目的とした治療やケアのことをいいます。

危険因子**(リスク因子)**※³

きけんいんし

病気の発症や悪化を早めるもとなる要素（ファクター）のことをいいます。



は

ま

や

ら

アルファベット

救援療法

きゅうえんりょうほう

→サルベージ療法（17 ページ参照）

胸椎^{※1}

きょうつゐ

胸の位置にある背骨の一部です。

虚弱

きよじゃく

→フレイル（29 ページ参照）

くすぶり型骨髄腫

くすぶりがたこつずいしゅ

→無症候性骨髄腫（32 ページ参照）

クレアチニン^{※2}

くれあちにん

血液中から尿中に排泄される不要な成分の一種で、腎機能の測定に用いられます。血清クレアチニン濃度の上昇は腎機能の低下を示します。

クレアチニン

クリアランス^{※2}

くれあちにん

くりあらんす

体にとって不要な成分であるクレアチニンを除去する腎臓の能力を検査する方法です。腎機能が低下した患者さんでは、クレアチニンクリアランス値が低下します。

**クロー・フカセ症候群
(POEMS 症候群)^{※3}**

くろう・ふかせ

しょうこうぐん

異常な形質細胞の増殖に伴ってつくられる特殊な蛋白質によって、末梢神経障害、手足のむくみ、皮膚の変化、胸水・腹水など、全身に様々な症状が現れる病気です。

グロブリン^{※4}

ぐろぶりん

血清中でアルブミンの次に量の多い蛋白質です。細菌やウイルスなどの異物から体を守る免疫やアレルギー反応に重要な働きをもちます。

※1 日本整形外科学会診療ガイドライン委員会ほか 監修：患者さんのための頸椎後縦靭帯骨化症ガイドブック 診療ガイドラインに基づいて、南診療ガイドライン 2018 年版補訂版、金原出版、2020、※4 安倍正博 監修：もっと知ってほしい多発性骨髄腫のこと、キャンサーネットジャパン ホームページ (http://www.jshem.or.jp/modules/special/index.php?content_id=3) [2023年5月閲覧]、※7 HeIC+用語解説 血液内科 第2版、メディックメディア、2017

か行

形質細胞^{※5}

けいしつさいぼう

リンパ球の一種である B 細胞が分化してできる細胞で、抗体をつくって細菌やウイルスなどの異物を攻撃します。しかし、多発性骨髄腫では、形質細胞に異常が起こり、がん化して骨髄腫細胞となり、役に立たない抗体（M 蛋白）をつくり続けます。

形質細胞白血病^{※4}けいしつさいぼう
はつけつびょう

多発性骨髄腫の一種です。末梢血中の骨髄腫細胞が増加する病気で、多くは多発性骨髄腫が進行することにより発症します。

血液細胞^{※5}

けつえきさいぼう

血液中にある赤血球、白血球、血小板などのすべての細胞成分のことをいいます。

血液腫瘍

けつえきしゅよう

→造血管腫瘍（22 ページ参照）

血液専門医^{※6}

けつえきせんもんい

日本血液学会の血液専門医資格認定試験に合格し、血液の病気の総合的な診断や治療を行うことのできる医師のことをいいます。

血液内科^{※7}

けつえきないか

血液の病気を専門に診断や治療を行う診療科です。

血小板^{※8}

けつしょうばん

血液細胞の一種で、出血した際に血を止めるための重要な働きをもちます。



抗 CD38 抗体薬^{※1}

こうしーでいー
さんじゅうはち
こうたいやく

モノクローナル抗体に分類されるお薬です。CD38 は、骨髄腫細胞の表面に多く発現している蛋白質です。抗 CD38 抗体は、CD38 に結合して骨髄腫細胞を攻撃し、骨髄腫細胞の増殖を抑える働きをもつようにつくられたものです。

※ 関連語：抗体医薬、モノクローナル抗体

抗 SLAMF7 抗体薬^{※2}

こうすらむえふせぶん
こうたいやく

モノクローナル抗体に分類されるお薬です。SLAMF7 は、免疫細胞の一種であるナチュラルキラー細胞（NK 細胞）や、骨髄腫細胞の表面に発現している蛋白質です。抗 SLAMF7 抗体は、NK 細胞の SLAMF7 に結合して NK 細胞を活性化したり、骨髄腫細胞の SLAMF7 に結合して骨髄腫細胞を攻撃したりして、骨髄腫細胞の増殖を抑える働きをもつようにつくられたものです。

※ 関連語：抗体医薬、モノクローナル抗体、ナチュラルキラー細胞



好塩基球^{※3}

こうえんききゅう

白血球の一種で、細菌やウイルスなどの異物から体を守る免疫やアレルギー反応に重要な働きをもちます。

高カルシウム血症^{※4}

こうかるしうむ
けっしょう

血中カルシウム濃度が上がり、口の渇きや意識障害などがみられる状態です。多発性骨髄腫で骨病変のある患者さんでは骨が溶解し、骨のカルシウムが血中に溶け出すため、血中のカルシウム濃度が上昇して高カルシウム血症を発症します。

※1 石田禎夫：医学のあゆみ，2018；265(1)：36-40、※2 柴山浩彦；日内会誌，2016；105(7)：1255-1260、※3 医療情報科学研究種がん132 多発性骨髄腫，2017、※5 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス 患者必携 がんになったら手にとるガイドメディア，2018、※7 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス ささまざまな症状への対応 口内炎・口内の乾燥

か 行

抗がん剤※⁵

こうがんざい

化学物質を用い、がん細胞を攻撃して死滅させるタイプのお薬の総称です（抗腫瘍剤ともいいます）。細胞毒性抗がん剤は、がん細胞だけではなく、正常な細胞も一緒に攻撃してしまうため、お薬の副作用が比較的強く現れます。

抗菌薬

こうきんやく

(抗生剤、抗生物質)※⁶(こうせいざい、
こうせいぶっしつ)

細菌の増殖を抑制したり、殺したりする働きのあるお薬で、感染症の治療や予防に用いられます。

口腔粘膜障害※⁷こうくうねんまく
しょうがい

口のなかの粘膜の障害です。抗がん剤の副作用により起こることがあります。

好酸球※³

こうさんきゅう

白血球の一種で、アレルギー反応に関連して働き、主にアレルギー性疾患で増加します。

抗体※⁴

こうたい

細菌やウイルスなどの異物が体に入ってきたときに、これらと結合して無毒化したり、体の外に排出し、感染を防ぐ免疫の機能に重要な働きをする蛋白質です。多発性骨髄腫では、細菌やウイルスなどの異物を攻撃することのできない、役に立たない抗体（M 蛋白）が大量につくられます。



**抗体医薬**

こうたいいやく

(抗体医薬品)^{※1}

(こうたいいやくひん)

抗体は体内でつくられる蛋白質で、様々な役割をもっています。その役割の1つに、がん細胞を攻撃して、がんの発症を未然に防ぐ働きがあります。そこで、この抗体を人工的に体外で大量につくり、お薬としての有効性が認められたものを抗体医薬と呼びます。

* 関連語：抗体、モノクローナル抗体

好中球^{※2}

こうちゅうきゅう

白血球の一種で、細菌やウイルスなどの異物から体を守る免疫に重要な働きをもちます。

国際病期分類システムこくさいびょうき
ぶんるいしすてむ

→ ISS 分類 (39 ページ参照)

骨芽細胞^{※3}

こつがさいぼう

骨をつくる細胞です。骨はいつも同じような状態にみえますが、常に破骨細胞により壊されたり、骨芽細胞によりつくられたりを繰り返しています。多発性骨髄腫では、骨髄腫細胞の影響により、骨芽細胞の働きが抑えられ、骨がつかれにくくなります。

骨髄^{※2}

こつすい

骨の中心にある部位で、造血幹細胞から血液細胞をつくり続けています。

骨髄検査^{※4}

こつすいけんさ

骨髄を採取し、血液をつくる能力や、骨髄腫細胞のような異常な細胞の有無などを確認するための検査です。骨髄穿刺と骨髄生検(針でとる)の2つの方法があります。

※1 日本製薬工業協会ホームページ くすりについて (https://www.jpma.or.jp/about_medicine/guide/med_qa/q49.html) [2023年5月作成委員会(日本骨粗鬆症学会, 日本骨代謝学会, 骨粗鬆症財団) 編: 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版、※4 安倍正博 監修: 各種がん 132 多発性骨髄腫, 2017、※6 国立がん研究センター がん対策情報センター: がん情報サービス がんに関する用語集 (<https://>

か 行

骨髄腫

こつずいしゅ

→多発性骨髄腫（23 ページ参照）

骨髄腫細胞^{※5}

こつずいしゅさいぼう

形質細胞に異常が起こり、がん化した細胞です。骨髄腫細胞は骨髄のなかで増え続け、細菌やウイルスなどの異物を攻撃する能力がなく役に立たない抗体（M 蛋白）をつくり続けます。

骨髄生検^{※4}

こつずいせいけん

骨髄に太めの針を刺し、骨髄の組織ごと採取する方法です。

骨髄穿刺^{※4}

こつずいせんし

骨に針を刺し、その骨の内部にある骨髄液を吸引してとる方法です。骨髄液を検査（骨髄検査）することにより、様々な病気の検査や、血液細胞をつくる能力を検査することができます。

骨髄抑制^{※6}

こつずいよくせい

骨髄において血液細胞をつくる能力が低下した状態をいいます。多発性骨髄腫では、骨髄腫細胞や治療に使用のお薬の影響により、骨髄抑制がみられます。骨髄抑制が起こると、赤血球の減少による貧血、白血球の減少による免疫の低下、血小板の減少による出血などが起こります。

骨粗鬆症^{※3}

こつそしょうしょう

骨がスポンジのようにスカスカになり、もろくなる病気です。加齢によるホルモンの変化やカルシウム量の低下などが原因で、多発性骨髄腫の骨病変とは別の原因によるものです。

か行

骨病変^{※1}

こつびょうへん

骨にみられる様々な異常です。多発性骨髄腫では、骨髄腫細胞の影響により骨の溶解が進むために、多くの患者さんで骨病変がみられます。骨病変が進行すると骨の痛みが発生したり、骨折の原因になることがあります。

孤立性形質細胞腫^{※2}

こりつせいけいしつ
さいぼうしゅ

骨やそれ以外の場所（胸壁など）に「腫瘤（しゅりゅう）」と呼ばれる骨髄腫細胞のかたまりができる病気です。症状は腫瘤がどこにできるかで異なり、多発性骨髄腫に特徴的な症状はほとんどみられません。放射線による局所的な治療が行われることが多いです。

さ行

催奇形性^{※3}

さいきけいせい

お薬や放射性物質などが、妊娠中の胎児に重大な障害を引き起こすことをいいます。

細菌感染症^{※2}

さいきんかんせんしょう

細菌が原因となる感染症です。多発性骨髄腫では、微生物を攻撃する抗体の減少や治療に使用のお薬の影響により免疫が低下するため、細菌感染症にかかりやすくなります。

サイクル^{※4}

さいくる

がんの治療は、通常、決められた治療が3週間ごと、あるいは4週間ごとなどの一定の周期で繰り返し行われます。この決められた治療の周期をサイクルといいます。

※1 安倍正博 監修：もっと知ってほしい多発性骨髄腫のこと、がんサネットジャパン、2021、※2 国立がん研究センター がん対策情報（<http://jlogos.com/docomosp/word.html?id=5035891>）、※4 勝俣範之 監修：もっと知ってほしい 患者さんのためのがん医療用語とganjoho.jp/public/qa_links/dictionary/dic01/index.html）[2023年5月閲覧]、※6 医療情報科学研究所 編：病気がみえる vol.5 血液

さ 行

再燃※⁵

さいねん

病気が治療により安定した効果が得られていた後、再び悪くなることをいいます。

再発※²

さいはつ

病気が治療により完全奏効（寛解）となった後、再び同じ病気が悪化することをいいます。

**サルベージ療法
（救援療法）**※⁶

さるべーじりょうほう

病気に対して、様々な治療を行っても効果が十分でない場合、あるいは再発を繰り返す場合に行う治療をいいます。

自家造血幹細胞移植

じかぞうけつ

かんさいぼういしょく

（自己造血幹細胞移植）※²

（じこぞうけつ

かんさいぼういしょく）

あらかじめ採取しておいた患者さん自身の造血幹細胞を、再び体内に戻し（移植し）、血液をつくる機能を正常に回復させる方法です。造血幹細胞移植を行う際には、造血幹細胞を一時的に増やすお薬を使用し、末梢血中の造血幹細胞を増やして採取し、冷凍保存します。その後、大量化学療法を行い、保存しておいた造血幹細胞を再び患者さんの体内に戻し（移植し）、血液をつくる機能が正常になるのを待ちます。自家造血幹細胞移植が普及したことにより、抗がん剤の大量投与が可能となり多発性骨髄腫の治療成績は向上しました。

**地固め療法**※⁶

じがためりょうほう

治療の効果が得られた後、その効果をより確実にするために行う治療のことをいいます。

支持療法※⁶

しじりょうほう

病気そのものに対する治療ではなく、病気の合併症や症状、治療の副作用を抑えるために行われる治療のことをいいます。

次世代シークエンサー →ネクストジェネレーションシークエンサー
じせだいしーくえんさー (26 ページ参照)

腫瘍細胞
(がん細胞)※1
しゅようさいぼう

がんの原因となる細胞で、異常な増殖を続けます。多発性骨髄腫の原因となる骨髄腫細胞も腫瘍細胞の一種です。

腫瘍崩壊症候群※2
しゅようほうかい
しょうこうぐん

抗がん剤により、骨髄腫細胞などのがん細胞が急速に死滅するために生じる体の異常です。体内の尿酸が増える、カリウム、カルシウム、リンなどのバランスが崩れる、血液が酸性になる、尿の量が減少するなどの症状がみられます。

腫瘍マーカー※3
しゅようまーかー

がんの種類によっては、がん細胞そのものや、がんに対する体の反応に伴って、体内の特定の物質が増加します。このような特定の物質を腫瘍マーカーと呼び、血液や尿中の腫瘍マーカーを調べることで、がんの進行の度合いや治療の効果などを知ることができます。

症候性多発性骨髄腫
しょうこうせい
たはつせいこつずいしゅ
(症候性骨髄腫)※4
(しょうこうせい
こつずいしゅ)

骨髄腫細胞や M 蛋白の増加により多発性骨髄腫と診断された患者さんで、血清カルシウム値の上昇、腎臓障害、貧血、骨病変など、代表的な多発性骨髄腫の臓器の障害による症状がみられる状態をいいます。一般的に、症候性多発性骨髄腫と診断されたら、治療が開始されます。

腎炎※5
じんえん

細菌による腎臓の感染症です。むくみ、蛋白尿、血尿、高血圧などの症状がみられます。

※1 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス 細胞ががん化する仕組み (https://ganjoho.jp/public/knowledge/用語集 (https://ganjoho.jp/public/qa_links/dictionary/dic01/index.html) [2023年5月閲覧]、※3 勝俣範之 監修：もっと知ってほしい各種がん132 多発性骨髄腫, 2017、※5 ドクターズ・ファイル 腎盂腎炎 (https://doctorfile.jp/medication/498/) [2023年5月閲覧]、vol.6 免疫・膠原病・感染症 第2版, メディックメディア, 2018

さ 行

新規薬剤※⁶

しんきやくざい

病気の治療に使用される新しいお薬のことをいいます。多発性骨髄腫では、2000年以降に登場したお薬を新規薬剤といいます。新規薬剤が使用されるようになり、治療成績が向上しています。

真菌※⁷

しんきん

カビの仲間の総称です。免疫機能の正常な人が真菌に感染することはほとんどありませんが、多発性骨髄腫では、微生物を攻撃する抗体の減少や治療に使用のお薬の影響により免疫が低下するため、真菌による感染症が起こることがあります。

腎障害※⁴

じんしょうがい

腎機能が低下した状態です。多発性骨髄腫では、腎臓へのM蛋白の沈着や、高カルシウム血症などが原因で、腎障害を起こしやすくなります。悪化すると腎不全となり、食欲不振、吐き気・嘔吐、尿量の減少やむくみなどが現れます。

腎不全※⁴

じんふぜん

腎機能の低下が進行し、停止した状態です。多発性骨髄腫では、腎臓へのM蛋白の沈着や、高カルシウム血症などを原因とする腎障害が進行して起こります。体内の余分で不要な水分を血液から除去できなくなり、体内の化学物質のバランスを保てなくなります。



**髄外病変**^{※1}

すいがいびょうへん

骨以外の限られた場所にできた「腫瘤（しゅりゅう）」と呼ばれる骨髄腫細胞のかたまりのことをいいます。多発性骨髄腫に特徴的な症状がなく、髄外病変だけが認められる病気は、多発性骨髄腫とは区別して「髄外性形質細胞腫」と呼ばれます。

ステージ

(病期)

すてーじ

→病期（28 ページ参照）

脆弱性

ぜいじやくせい

→フレイル（29 ページ参照）

生存期間(OS)^{※2}

せいぞんきかん

病気が診断された後、また病気の治療を行った後に、生存することができた期間をいいます。

生存率^{※3}

せいぞんりつ

病気にかかった場合、またその病気の治療を行った場合、あとどれくらい生存できるかの目安です。たとえば、5年生存率70%というのは、5年後に生存している可能性が7割であることを示します。

生着^{※4}

せいぢやく

移植した臓器が、移植後に正常な働きを回復した状態をいいます。多発性骨髄腫では、造血幹細胞を患者さんに移植した後に、移植した造血幹細胞が骨髄で分化して、血液細胞が増えて再び正常な働きを回復した状態をいいます。

※1 日本骨髄腫学会 編：多発性骨髄腫の診療指針 第5版，文光堂，2020、※2 勝俣範之 監修：もっと知ってほしい 患者さんのためのがなったら手にとるガイド普及新版，学研メディカル秀潤社，2017、※4 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス 造血学研究所 編：病気がみえる vol.5 血液 第2版，メディックメディア，2017、※6 日本整形外科学会診療ガイドライン委員会ほか 監修：患者さ髄腫のこと，キャンサーネットジャパン，2021、※8 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス 造血幹細胞移植

さ 行

セカンドオピニオン^{※2} ある病院の特定の先生からだけでなく、別の診療科や別の病院の先生にも、診断や治療に関して考え方を聞くことをいいます。セカンドオピニオンを聞くことにより、より多くの治療法のなかから、治療の選択が可能になることがあります。

赤血球^{※5}
せっけつきゅう

血液細胞の一種で、酸素を運ぶ役割をもつ細胞です。多発性骨髄腫では、骨髄腫細胞の影響により赤血球が減少するため、貧血などの症状が現れます。

仙骨^{※6}
せんこつ

骨盤の中央にあり、背骨の一番下にある骨です。

染色体検査^{※7}
せんしよくたいけんさ

ある特定の染色体が重複したり、欠損したり、一部の場所が入れ替わったりする異常が起こっていないかどうかを調べるための検査です。染色体検査には様々な方法がありますが、多発性骨髄腫では、FISH法が使用されることが多いです。

※ 関連語：FISH法

造血幹細胞^{※8}
ぞうけつかんさいぼう

通常は骨髄に存在し、すべての血液細胞のもとになる細胞です。

造血幹細胞移植^{※8}
ぞうけつかんさいぼう
いしよく

あらかじめ採取しておいた造血幹細胞を、輸血と同じように点滴注射で再び体内に戻し（移植し）、血液をつくる機能を正常に回復させる方法です。

**造血幹細胞採取
(幹細胞採取)^{※1}**

ぞうけつかんさいぼう
さいしゅ

造血幹細胞移植を実施する前に、移植に必要な造血幹細胞を採取することをいいます。ほとんどの場合、末梢血から採取されます。造血幹細胞は、通常の状態では末梢血中にはほとんど存在しません。そのため、化学療法の後、造血幹細胞を一時的に増やすお薬を使用し、末梢血中の造血幹細胞を増やして採取し保存します。

**造血器腫瘍
(血液腫瘍)^{※2}**

ぞうけつきしゅよう

血液中の血球（赤血球、白血球、血小板など）のもとになる細胞が、がん化して生じるがんのことを造血器腫瘍や血液腫瘍、あるいは血液がんといいます。主な造血器腫瘍には、白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫があります。

奏効率^{※3}

そうこうりつ

病気の治療後、治療の効果がどの程度の割合の患者さんにみられたかをいいます。たとえば、奏効率 70%であれば、7 割の患者さんに治療の効果があつたことを示します。

総蛋白^{※4}

そうたんぱく

血清中に含まれるすべての蛋白質の合計です。多発性骨髄腫では、総蛋白の増加や減少がみられます。



※1 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス 造血幹細胞移植 (https://ganjoho.jp/public/dia_tre/treatment/)
 ※2 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス がんに関する用語集 (https://ganjoho.jp/public/qa_links/2017)、※3 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス 各種がん132 多発性骨髄腫, 2017、※4 元雄良治：初めの骨髄腫および類縁疾患 第3版

た 行

帯状疱疹※⁵

たいじょうほうしん

帯状疱疹ウイルスによる感染症です。多発性骨髄腫では、微生物を攻撃する抗体の減少や治療に使用のお薬の影響により免疫が低下するため、帯状疱疹などの感染症にかかりやすくなります。

大量化学療法※⁵たいりょう
かがくりょうほう

多発性骨髄腫の患者さんが造血幹細胞移植を行う前に、大量の抗がん剤を用いて骨髄腫細胞を死滅させる方法です。

多剤併用化学療法※⁶たざいへいりょう
かがくりょうほう

がん治療のために、がん細胞に対して異なる作用をもつ複数の抗がん剤（化学療法薬）を同時に使用する方法です。多発性骨髄腫に対しても、多剤併用化学療法が用いられます。

多発性骨髄腫※⁵

たはつせいこつすいしゅ

骨髄中で骨髄腫細胞が増え続けて、異物を攻撃する能力がなく役に立たない抗体（M 蛋白）をつくり続け、これらの骨髄腫細胞や M 蛋白の影響により、様々な悪い症状が現れる病気です。

単球※²

たんきゅう

白血球の一種で、細菌やウイルスなどの異物から体を守る免疫に重要な働きをもちます。

単クローナル抗体

たんくろーなるとうたい

→モノクローナル抗体（34 ページ参照）

タンデム移植※⁷

たんでむいしょく

自家造血幹細胞移植を、3～4 カ月の間に連続して 2 回行う方法をいいます。

は

ま

や

ら

アルファベット

蛋白分画検査

たんぱくぶんかくけんさ
(蛋白電気泳動)※1
 (たんぱくでんきえいどう)



様々な蛋白質を、重さに応じて分類し、それぞれの蛋白質の量を検査する方法で、多発性骨髄腫の診断に用いられます。多発性骨髄腫の患者さんの血清の蛋白を蛋白分画検査を用いて分類すると、M蛋白の量が多いためMピークといわれる高い山が検出されます。

血清蛋白電気泳動の結果



※蛋白質の種類により、一定の位置にピークが現れます。

(イメージ図)

治療アルゴリズム

ちりょうあるごりすむ

→アルゴリズム (6 ページ参照)

治療成績※2

ちりょうせいせき

病気の治療による効果の程度をいいます。

デューリーとサーモンの病期分類

(Durie & Salmon 病期分類)※3

でゅーりーとさーもんの
 びょうきぶんるい

古くから (1975 年) 世界中で広く使用されている多発性骨髄腫の分類基準です。骨病変の程度とヘモグロビンなどの様々な検査値を用いて、重症度の判定を行います。

※1 医療情報科学研究所 編:病気がみえる vol.5 血液 第2版, メディックメディア, 2017、※2 PDQ®日本語版 がん用語辞書 (<https://2020>)、※4 国立がん研究センター がん対策情報センター:がん情報サービス 造血幹細胞移植 (https://ganjoho.jp/public/dia_tre/2021)、※6 国立がん研究センター がん対策情報センター:がん情報サービス がんに関する用語集 (https://ganjoho.jp/public/qa_links/)

た 行

同種造血幹細胞移植

どうしゅぞうけつ
かんさいぼういしよく

(同種移植)※4

(どうしゅいしよく)

あらかじめ採取しておいた患者さん以外の造血幹細胞を、患者さんの体内に移植し、血液をつくる機能を正常に回復させる方法です。

導入療法

(あるいは寛解導入療法)※5

どうにゅうりょうほう

がんの症状の改善やがん細胞の減少や消失(寛解)を目的として、最初に行う治療法のことをいいます。

な 行

**ナチュラルキラー細胞
(NK細胞)※1**

なちゅらるきらーさいぼう

リンパ球の一種で、細菌やウイルスなどの異物から体を守る免疫に重要な役割をもちます。

難治がん※6

なんちがん

治療を行っても、病気が非常に治りにくいがんのことをいいます。

二次がん※6

にじがん

現在発生しているがん以外に、新たに別のがんが発生することをいいます。

**乳酸脱水素酵素
(LDH)※7**

にゅうさんだっすいそこうそ

肝臓、赤血球、筋肉、がん細胞などに多く含まれる酵素です。多発性骨髄腫では、乳酸脱水素酵素の上昇がみられることがあります。

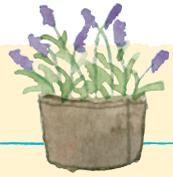
尿素窒素

(BUN)※7

にょうそちっそ

血清中に含まれる尿素的量を示します。腎機能が低下すると、尿素窒素値が上昇します。





な 行

尿毒症^{※1}

にょうどくしょう

腎機能が低下し、本来は尿中に排泄されるべき成分が血中にたまって起こる中毒症状です。嘔吐、頭痛、むくみ、意識障害などの症状がみられます。

ネクスト ジェネレーション シークエンサー

(次世代シークエンサー、
NGS)^{※2}

ねくすとじえねれーしょん
しーくえんさー

遺伝子の塩基配列（蛋白質がつくられるときにもととなる設計図のようなもの）を高速に調べることができる新しい装置です。この装置を用いた検査から、がんや遺伝性の病気の原因となる様々な遺伝子変異が明らかにされはじめています。また、微小残存病変（MRD）を評価するのに用いられます。

は 行

破骨細胞^{※3}

はこつさいぼう

骨を溶かしたり壊したりする細胞です。骨はいつも同じような状態にみえますが、常に破骨細胞により壊されたり、骨芽細胞によりつくられたりを繰り返しています。多発性骨髄腫では、骨髄腫細胞の影響により、破骨細胞の働きが強められ、骨の溶解が進みます。

白血球^{※4}

はっけつきゅう

血液細胞の一種で、細菌やウイルスなどの異物から体を守る免疫に重要な役割をもちます。白血球は、好中球・好酸球・好塩基球・リンパ球・単球の5種類に分けられます。

※1 MEDLEY, 尿毒症 (<https://medley.life/diseases/54fa8d1b6ef458c73885ceb2/>) [2023年5月閲覧]、※2 水島_菅野純子: 鬆症財団) 編: 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版、※4 医療情報科学研究所 編: 病気がみえる vol.5 血液 第2版, メディック qa_links/dictionary/dic01/index.html) [2023年5月閲覧]、※6 医療情報科学研究所 編: 薬がみえる vol.3 悪性腫瘍と薬 第1版,

は 行

**パフォーマンス
ステータス
(PS) ※5**

ぱふぉーまんす
すてーたす

日常生活に必要な作業を自分でどの程度こなせるかという視点から、患者さんの全身状態を数値（スコア）で表す診断基準の1つです。多発性骨髄腫では、造血幹細胞移植を行うかどうかなどの治療方針を決定する上で重要な判断材料に使われています。

**パンチドアウト
(打ち抜き像) ※4**

ぱんちどあうと

レントゲン検査で骨に丸い穴が開いたようにみられる病変をいいます。多発性骨髄腫の患者さんで、骨の溶解が進行することによりみられます。

**微小残存病変
(MRD) ※4**

びしょうざんぞん
びょうへん

がんが完全奏効したり、治癒したりしたようにみえても、それでもなお体のなかにごくわずかに残っている病変やがん細胞のことをいいます。微小残存病変があると、がんの再発や転移が起こりやすいと考えられています。

✦ 関連語：完全奏効

**ヒストン
脱アセチル化
酵素阻害薬
(HDAC 阻害薬) ※6**

ひすとん
だつあせちるか
こうそそがいやく

ヒストンは、主に細胞の核のなかにある蛋白質です。がん細胞では、このヒストンという蛋白質を脱アセチル化する酵素（ヒストン脱アセチル化酵素）の働きが活発になり、がん細胞の増殖を早めていると考えられています。ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬は、この酵素の働きを妨げることにより、がん細胞の増殖を抑制するお薬です。

は

ま

や

ら

アルファベット

ビスホスホネート製剤※¹
びすほすほねーとせいざい

骨病変の治療に使用するお薬です。多発性骨髄腫では、骨髄腫細胞の影響により骨の溶解が進行しますが、ビスホスホネート製剤は、骨を壊す破骨細胞の働きを弱めることにより、骨病変の進行を抑制します。

非分泌型骨髄腫※¹
ひぶんぴつがた
こつすいしゆ

多発性骨髄腫の一種です。多発性骨髄腫に特有の症状はみられるが、M蛋白の増加がみられない状態をいいます。

**病期
(ステージ)**※²
びょうき

病気の重症度や進行の程度を段階的に表す基準です。通常、病期Ⅰ、病期Ⅱ、病期Ⅲなどで表し、数字が大きいくほど、重症で病気が進行していることを示します。

貧血※³
ひんけつ

血液中で酸素を運ぶ赤血球やヘモグロビンが減少するために、めまい、疲労感、息切れ、動悸などの症状が現れる状態で、一般的に最も多い原因は鉄分の不足によるものです。一方、多発性骨髄腫では、骨髄において骨髄腫細胞が増え続けるため、赤血球がつくられにくくなるのが原因で貧血が起こりやすくなります。



※1 安倍正博 監修：もっと知ってほしい多発性骨髄腫のこと、がんサーネットジャパン、2021、※2 勝俣範之 監修：もっと知ってほしい 患者まざまな症状への対応 貧血 (<https://ganjoho.jp/public/support/condition/anemia/index.html>) [2023年5月閲覧]、※4 医療情報ステートメント、平成26年5月、※6 医療情報科学研究所 編：薬がみえる vol.3 悪性腫瘍と薬 第1版、メディックメディア、2016

は 行

副腎皮質ステロイド薬

ふくじんひしつ
すてろいどやく

(副腎皮質ホルモン薬) ※4

(ふくじんひしつ
ほ르몬やく)

副腎皮質でつくられるホルモンと同じ成分を含むお薬で、炎症を抑える目的などに使用されます。骨髄腫細胞を抑える働きもあり、多発性骨髄腫の治療薬としても使用されます。

部分奏効

ぶぶんそうこう

(部分寛解) ※1

(ぶぶんかんかい)

治療により、がんの症状が軽減したり、がん細胞が一定量まで消失する効果が得られた場合をいいます。いくつかの学会などにより多発性骨髄腫における部分奏効（寛解）の詳しい定義が決められています。

**フリーライトチェーン
検査 (FLC 検査) ※1**

ふりーらいとちえーん
けんさ

骨髄腫細胞は、フリーライトチェーン（遊離軽鎖）という蛋白もつくるため、多発性骨髄腫では、血清中のフリーライトチェーンの量や種類が異常を示し、診断や治療の効果をみるのに使用されます。

フレイル**(虚弱、Frailty) ※5**

ふれいる

高齢になると、運動機能や認知機能が低下したり、病気にかかりやすくなったりして、日常生活に様々な支障が生じることがあります。一方で、そのような心身が弱まった状態にあっても、適切な治療やケアによって回復することもあります。そこで、高齢で心身が弱まっている状態を特にフレイルと呼ぶようになりました。フレイルという言葉は、英語の「Frailty」が語源で、「虚弱」や「脆弱性」と訳されることもあります。

プロテアソーム ※6

ぶろてあそーむ

細胞のなかにある蛋白質を分解する酵素の集団です。

プロテアソーム阻害薬※¹ 多発性骨髄腫の治療に用いる、細胞のなかにある
ぷろてあそーむそがいやく 蛋白質を分解する酵素の働きを抑えるお薬です。

分化※² 単一なものが、成熟して複雑に分かれていくこ
ぶんか ことをいいます。たとえば、造血幹細胞から、赤
白血球、白血球、血小板などがつくられることも
分化によるものです。

分子標的薬 病気の細胞だけがもつ特定の分子や遺伝子だけ
ぶんしひょうてきやく を標的として、効率よく狙い撃ちする作用をも
(分子標的治療薬)※³ つようにつくられたお薬のことをいいます。正
常な細胞を攻撃することが少ないことから、お
薬の副作用が比較的弱いと考えられています。

併用療法※⁴ 治療による効果が最も得られるように、作用の
はいようりょうほう 異なる2つ以上の治療を計画的に組み合わせて、
同時に行う方法をいいます。がんの治療では、
お薬による治療と放射線治療との併用療法や、3
剤以上の作用の異なるお薬を使った多剤併用化
学療法などがあります。

※ 関連語：多剤併用化学療法

ヘマトクリット※⁵ 血液中に占める血球の体積の割合を示す数値で
へまとくりっと す。貧血の患者さんでは、ヘマトクリット値が
低下します。

ヘモグロビン※⁵ 赤血球に含まれる蛋白質で、酸素分子と結合す
へもぐろびん る性質をもち、肺から全身へと酸素を運搬する
働きをもちます。貧血の患者さんでは、ヘモグ
ロビン値が低下します。

※1 医療情報科学研究所 編：薬がみえる vol.3 悪性腫瘍と薬 第1版，メディックメディア，2016、※2 医療情報科学研究所 編：病気がみ
サーネットジャパン，2015、※4 元雄良治：初めての一步は絵で学ぶ 腫瘍学 知っておきたいがんの知識とケア，じほう，2015、※5 中尾隆明
感染症 第2版，メディックメディア，2018、※7 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス 各種がん132 多発性骨髄
(補液) (<http://jlogos.com/docomosp/word.html?id=5036462> (輸液))、※9 難病情報センター：用語集 (<https://www.nanbyou.jp>
(https://ganjoho.jp/public/dia_tre/treatment/H SCT/index.html) [2023年5月閲覧])

は 行

ヘルパー T 細胞^{※6}
へるぱーていーさいぼう

リンパ球の一種で、細菌やウイルスなどの異物から体を守る免疫に重要な働きをもちます。

**ベンス・ジョーンズ
蛋白 (BJP)**^{※7}
べんす・じょーんず
たんぱく

骨髄腫細胞でつくられる異常な蛋白質です。多くの多発性骨髄腫患者さんの尿中にみられます。

補液 (輸液)^{※8}
ほえき

水分や電解質などを点滴注射により投与する治療法です。

**ポリメラーゼチェーン
リアクション** → PCR (42 ページ参照)
ぼりめらーぜちえーん
りあくしょん

本態性 M 蛋白血症 → MGUS (40 ページ参照)
ほんたいせいえむたんぱく
けっしょう

ま 行

末梢血^{※9}
まっしょうけつ

血管を流れている血液のことをいいます。骨髄や脾臓・肝臓にある血液やリンパ、組織液、臍帯血などと区別するために末梢血と呼ばれます。

末梢血造血幹細胞^{※10}
まっしょうけつ
ぞうけつかんさいぼう

末梢血中にある造血幹細胞のことをいいます。



は

ま

や

ら

アルファベット

末梢神経障害^{※1}

まっしょうしんけい
しょうがい

体の様々な部位に痛みやしびれ、筋力低下などが起きる神経系の障害です。通常は手か足の先から始まり、時間とともに悪化していきます。抗がん剤の副作用として現れることがあります。

**マルチカラー
フローサイトメトリー
(MFC)**

まるちからー
ふるーさいとめとりー
(フローサイトメトリー)^{※2}
(ふるーさいとめとりー)

がん細胞などの病気の細胞の表面に現れるある特定の蛋白質を、2種類以上同時に測定できる新しい方法です。微小残存病変（MRD）を評価するのに用いられます。

慢性腎炎^{※3}

まんせいじんえん

長期にわたり腎機能が低下し、血尿・蛋白尿が少なくとも1年以上持続する状態をいいます。

**無症候性骨髄腫
(くすぶり型骨髄腫)**^{※4}

むしょうこうせい
こつずいしゅ

多発性骨髄腫に特有の症状（骨病変、高カルシウム血症、腎障害、貧血）はみられないが、骨髄腫細胞やM蛋白の増加がみられる状態をいいます。

**無増悪期間
(TTP)**^{※5}

むぞうあくきかん

病気が治療によりよくなった後、悪化しない状態が続いている期間をいいます。

**無増悪生存期間
(PFS)**^{※5}

むぞうあくせいぞんきかん

病気が治療によりよくなった後、悪化しない状態で生存が可能であった期間をいいます。

※1 厚生労働省：重篤副作用疾患別対応マニュアル 末梢神経障害，平成21年5月、※2 日本骨髄腫学会 編：多発性骨髄腫の診療指
立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス 各種がん132 多発性骨髄腫，2017、※5 米国保健福祉省 食品医薬品局：
2018、※7 永友利津子ほか：内科，2013；111(6)；1281-1282、※8 医療情報科学研究所 編：病気がみえる vol.5 血液 第2版，メ

ま 行

免疫^{※6}

めんえき

生物が生まれながらにもっている、細菌やウイルスなどの異物から体を守る力のことをいいます。

免疫グロブリン (Ig)^{※6}

めんえきぐるぶりん

血清中に含まれる蛋白質の一種です。免疫グロブリンは、細菌やウイルスなどの異物を攻撃する抗体と同じものです。

免疫固定法^{※7}

めんえきこていほう

血清や尿中の蛋白の種類を検査するための検査法で、免疫電気泳動法と比較して微量の M 蛋白を検出することができます。

免疫細胞^{※6}

めんえきさいぼう

細菌やウイルスなどの異物から体を守る免疫の働きに関係しているすべての細胞の総称です。

免疫調節薬 (IMiDs)^{※4}

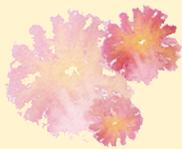
めんえきちょうせつやく

多発性骨髄腫の治療に用いる、免疫の機能を調節する作用をもつお薬です。

免疫電気泳動^{※8}

めんえきでんきえいどう

血清や尿中の蛋白の種類を検査するための検査法で、多発性骨髄腫における M 蛋白の同定、型の判定 (IgG・IgA・IgM などのカッパあるいはラムダ型など)、尿中ベンス・ジョーンズ蛋白の有無をみるために使用されます。



ま 行

免疫療法^{※1}

めんえきりょうほう

ヒトにはもともと、体内で発生したがん細胞を攻撃して死滅させる免疫の仕組みが備わっています。その免疫を利用した治療法を広い意味で免疫療法と呼びます。効果が認められて国の承認を受けたお薬もありますが、効果が明らかではない治療法もあるため、両者を区別して考える必要があります。

モノクローナル抗体 (単クローナル抗体)^{※2}

ものくろーなるこうたい

抗体には数多くの種類があり、無数に近いと考えられています。モノクローナル抗体は、がん細胞などの病気の細胞に現れるある特定の蛋白質を効率よく攻撃できるように、人工的にたった1種類のB細胞から大量につくりだされた全く同一の1種類の抗体のことをいいます。すでに、がんやリウマチの治療などに効果が認められたモノクローナル抗体もあり、お薬として広く使用されています。

モノクローナル蛋白

ものくろーなるたんぱく

→ M 蛋白 (39 ページ参照)

や 行

有害事象^{※3}

ゆうがいじしょう

病気の治療中に現れることがある、患者さんにとって好ましくない症状や他の病気などのことをいいます。お薬が原因で有害事象が現れた場合には、「薬剤関連有害事象」や「副作用」と呼ばれることもあります。

※1 がん治療.com (<https://www.ganchiryo.com/glossary/glossary07.php>) [2023年5月閲覧]、※2 国立がん研究センター がん対策
閲覧]、※3 勝俣範之 監修：もっと知ってほしい 患者さんのためのがん医療用語とお薬、キャンサーネットジャパン、2015、※4 安倍正博 監修：
各種がん132 多発性骨髄腫、2017、※6 医療情報科学研究所 編：病気がみえる vol.5 血液 第2版、メディックメディア、2017

や 行

輸液

ゆえき

→補液 (31 ページ参照)

予後^{※4}

よご

病気の後、また病気の治療を行った後の患者さんの状態をいいます。

予後因子^{※5}

よごいんし

病気の後、また病気の治療を行った後の患者さんの状態に影響を与える因子のことをいいます。

ら 行

リスク因子

りすくいんし

→危険因子 (9 ページ参照)

良性単クローン性
高ガンマグロブリン
血症

りょうせいたんくろーんせい
こうがんまぐろぶりん
けっしょう

→ MGUS (40 ページ参照)

リンパ球^{※6}

りんぱきゅう

白血球の一種で、細菌やウイルスなどの異物から体を守る免疫に重要な働きをもちます。リンパ球は大きく B 細胞、T 細胞、NK 細胞に分けられます。



A

ALP

えーえるぴー

→アルカリフォスファターゼ (6 ページ参照)

B

Bリンパ球

びーりんぱきゅう

(B細胞)^{※1}

(びーさいぼう)

リンパ球の一種です。体内に細菌やウイルスなどの異物が入ってくると、形質細胞に変化して抗体をつくり異物を攻撃して、私たちの体を守る免疫に重要な働きをします。しかし、多発性骨髄腫では、形質細胞ががん化して骨髄腫細胞となり、異物を攻撃できない役に立たない抗体(M蛋白)をつくり続け、様々な悪い症状を引き起こします。

BJP

びーじえいぴー

→ベンス・ジョーンズ蛋白 (31 ページ参照)

BUN

びーゆーえぬ

→尿素窒素 (25 ページ参照)

β_2 ミクログロブリン^{※1}

べーたつーみくろ

ぐるぶりん

リンパ球を含め多くの細胞の表面に存在している小さな蛋白質で、血液中や尿中にも少量含まれます。多発性骨髄腫では、 β_2 ミクログロブリン値が正常より上昇します。



C

C反応性蛋白質

シーはんのうせい
たんぱくしつ

(CRP) ※2

(シーあーるぴー)

体のなかで、感染や炎症、組織の破壊が起きているときに血中に現れる蛋白質です。多発性骨髄腫では、病気の進行や感染症によりC反応性蛋白質の上昇がみられます。

CRAB ※3

くらぶ

多発性骨髄腫でみられる4つの主な症状の英語の頭文字をとったものです。Cは高カルシウム (calcium) 血症、Rは腎臓 (renal) の障害、Aは貧血 (anemia)、Bは骨 (bone) 病変です。

CT ※4

しーていー

X線を照射しながら体の周りで機械を回転させ、人体を透過したX線の量をコンピューターで解析して、人体の輪切り画像 (横断面) をつくる検査です。従来 of 検査に比べて、わずかな骨病変や骨髄腫細胞の広がりを発見することができます。

D

Durie & Salmon**病期分類**

でゅーりーあんどさーもん
びょうきぶんるい

→デューリーとサーモンの病期分類

(24 ページ参照)



※1 医療情報科学研究所 編：病気がみえる vol.5 血液 第2版，メディックメディア，2017、※2 中尾隆明ほか：看護の現場ですぐに役立つ検査値のキホン，秀和システム，2017、※3 安倍正博 監修：もっと知ってほしい多発性骨髄腫のこと，キャンサーネットジャパン，2021、※4 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス CT 検査とは (https://ganjoho.jp/public/dia_tre/inspection/ct.html) [2023年5月閲覧]

F

FISH 法^{*1}

ふいっしゅほう

染色体の構造の異常や数の異常を検出する方法です。多発性骨髄腫でも、染色体検査の1つとして広く使用されています。

FLC 検査

えふえるしーけんさ

→フリーライトチェーン検査 (29 ページ参照)

Frailty

ふれいるていー

→フレイル (29 ページ参照)

H

HDAC 阻害薬

えいちだっくそがいやく

→ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬
(27 ページ参照)

I

Ig

あいじー

→免疫グロブリン (33 ページ参照)

IMiDs

(免疫調節薬)

いみっず

→免疫調節薬 (33 ページ参照)



I

IMWG 診断基準^{※1}

あいえむだぶりゅじー
しんだんきじゅん

国際骨髄腫ワーキンググループ（IMWG）という世界的な多発性骨髄腫の研究グループが定めた多発性骨髄腫の診断基準で、世界的に広く利用されています。

**ISS分類
(国際病期分類
システム)**^{※2}

あいえすえすぶるんいち

多発性骨髄腫の重症度を分類するための基準で、2005年に作成されたものです。血清 β_2 ミクログロブリンと血清アルブミンの2つの検査値のみを用いて、簡便に重症度を判定することができます。最近、重症度をより正確に判定するための改訂が行われました。

✦ 関連語：R-ISS 分類

L

LDH

えるでいーえいち

→ 乳酸脱水素酵素（25 ページ参照）

M

**M蛋白
(モノクローナル蛋白)**^{※3}

えむたんぱく

骨髄腫細胞でつくられる、異物を攻撃する能力のない（役に立たない）抗体のことをいいます。

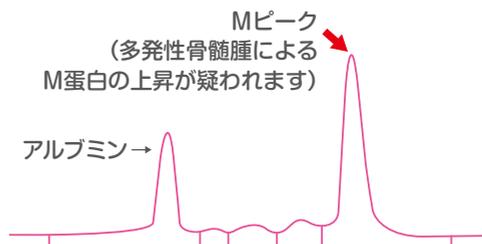


※1 医療情報科学研究所 編：病気がみえる vol.5 血液 第2版，メディックメディア，2017、※2 安倍正博 監修：もっと知ってほしい多発性骨髄腫のこと，がんサーネットジャパン，2021、※3 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス 各種がん132 多発性骨髄腫，2017

Mピーク※1

えむびーく

多発性骨髄腫の患者さんの血清の蛋白を蛋白分画検査を用いて分類すると、M蛋白の量が多いためM蛋白の量を示す山が高く現れます。これをMピークといいます。

血清蛋白電気泳動の結果

※蛋白質の種類により、一定の位置にピークが現れます。

(イメージ図)

MGUS

(本態性 M 蛋白血症、
良性単クローン性
高ガンマグロブリン
血症)※2

えむがす

意義不明の単クローン性ガンマグロブリン血症の略語です。多発性骨髄腫の症状や骨髄腫細胞の増加はみられないが、少ない量のM蛋白がみられる状態です。

MRD

えむあーるでいー

→微小残存病変 (27 ページ参照)



M

MRI^{※3}

えむあーるあい

強力な磁石でできた筒のなかに入り、磁石と電磁波を使って人体のあらゆる臓器や組織を撮影する検査です。従来の検査に比べて、わずかな骨病変や骨髄腫細胞の広がりを発見することができます。

N

NCCN ガイドライン^{※4}えぬしーえぬ
がいでらゐん

全米における代表的ながんセンターで結成されたガイドライン策定組織 NCCN (National Comprehensive Cancer Network) が作成し、年に 1 回以上改訂が行われ、世界的に広く利用されているがん診療ガイドラインです。様々ながんに対する治療指針が定められています。

NGS

えぬじーえす

→ネクストジェネレーションシークエンサー
(26 ページ参照)

NK 細胞

えぬけーさいぼう

→ナチュラルキラー細胞 (25 ページ参照)

O

OS

おーえす

→生存期間 (20 ページ参照)



※1 医療情報科学研究所 編：病気がみえる vol.5 血液 第2版，メディックメディア，2017、※2 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス 各種がん132 多発性骨髄腫，2017、※3 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス MRI 検査とは (https://ganjoho.jp/public/dia_tre/inspection/mri.html) [2023年5月閲覧]、※4 NCCN ガイドライン日本語版 (<https://www2.tri-kobe.org/nccn/>) [2023年5月閲覧]

P

PCR
(ポリメラーゼチェーン
リアクション)※¹

ぴーしーあーる

非常に少量の DNA を大量に複製する方法です。多発性骨髄腫でも、遺伝子変異の解析や、微小残存病変 (MRD) の検出に使用されています。

PET※²

ペット

特殊な検査薬を点滴で人体に投与して、全身の細胞のうち、がん細胞だけに目印をつけ、専用の装置で体を撮影することで、がんを発見するための検査法です。従来の検査に比べて、非常に小さな早期がんまで発見することができます。

PFS

ぴーえふえす

→無増悪生存期間 (32 ページ参照)

POEMS 症候群

ぽえむすしょうこうぐん

→クロウ・フカセ症候群 (10 ページ参照)

PS

ぴーえす

→パフォーマンスステータス (27 ページ参照)

Q

QOL

きゅーおーえる

(Quality of life)※¹

(くおりてい おぶらいふ)

生活の質のことをいいます。病気や治療の副作用、後遺症などによって、それまであたりまえに行えた生活ができなくなることがあり、これを「QOL が低下する」などの表現で用います。

R

**Revised-ISS 分類
(R-ISS 分類)※³**りばいずど - あいえすえす
ぶんるい

従来の ISS 分類が 2015 年に改訂されたもので、多発性骨髄腫の重症度を分類するための新しい基準です。R-ISS 分類では、血清 β_2 ミクログロブリン、血清アルブミン、乳酸脱水素酵素 (LDH) の 3 つの検査値と遺伝子異常により重症度を判定します。

✦ 関連語：ISS 分類

T

Tリンパ球ていーりんぱきゅう
(T細胞)※⁴
(ていーさいぼう)

リンパ球の一種です。細菌やウイルスなどの異物を攻撃する抗体は作りませんが、様々なかたちで免疫に重要な働きをもちます。

TTP

ていーていーぴー

→無増悪期間 (32 ページ参照)



※1 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス がんに関する用語集 (https://ganjoho.jp/public/qa_links/dictionary/dic01/index.html) [2023年5月閲覧]、※2 国立がん研究センター がん対策情報センター：がん情報サービス 各種がん132 多発性骨髄腫, 2017、※3 安倍正博 監修：もっと知ってほしい多発性骨髄腫のこと, キャンサーネットジャパン, 2021、※4 医療情報科学研究所 編：病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 第2版, メディックメディア, 2018

医療機関名